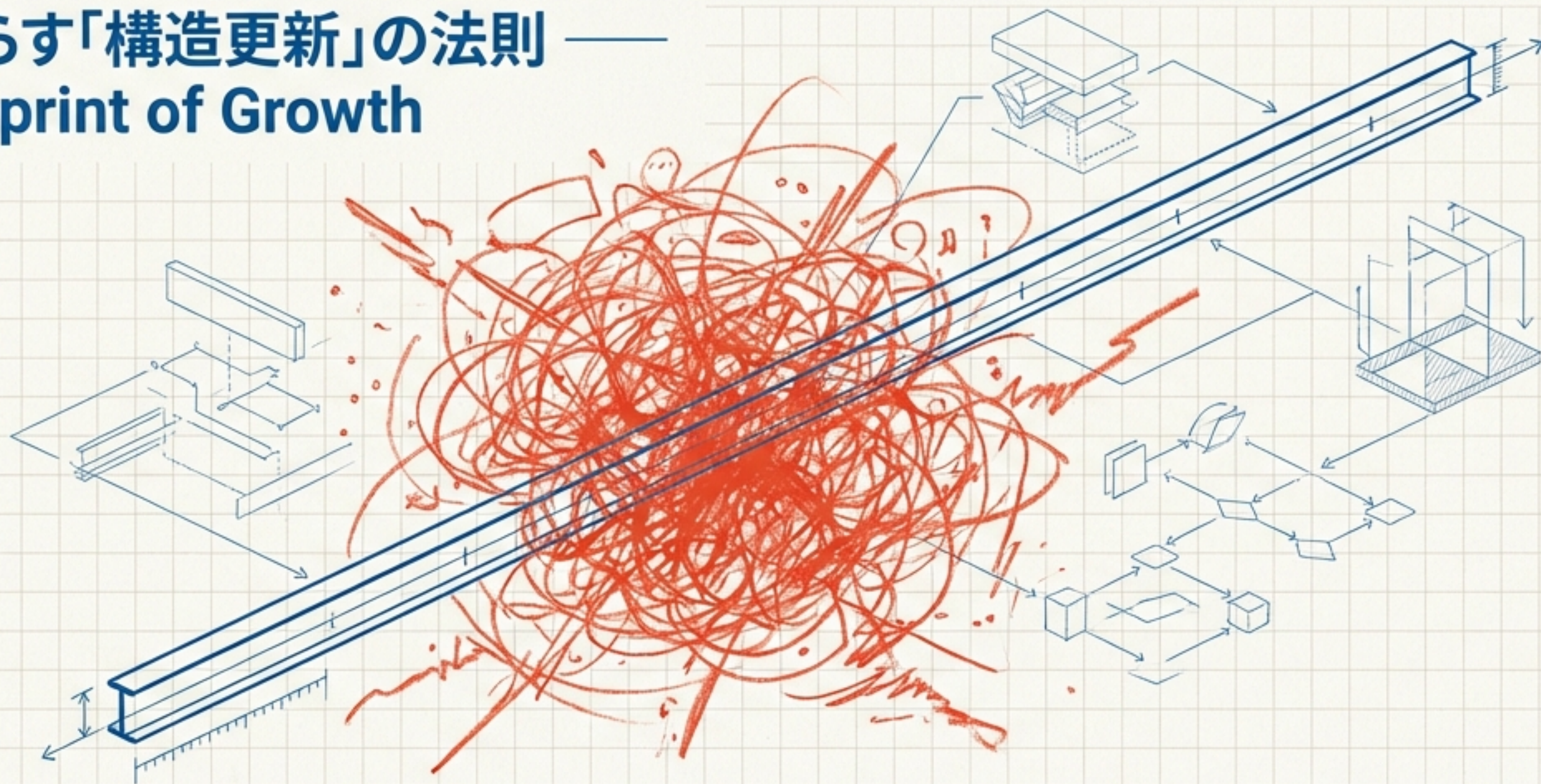


# 傷つけない優しさは、 緩やかな見捨て

ミスを減らす「構造更新」の法則 —  
The Blueprint of Growth

慰めではなく、更新を。



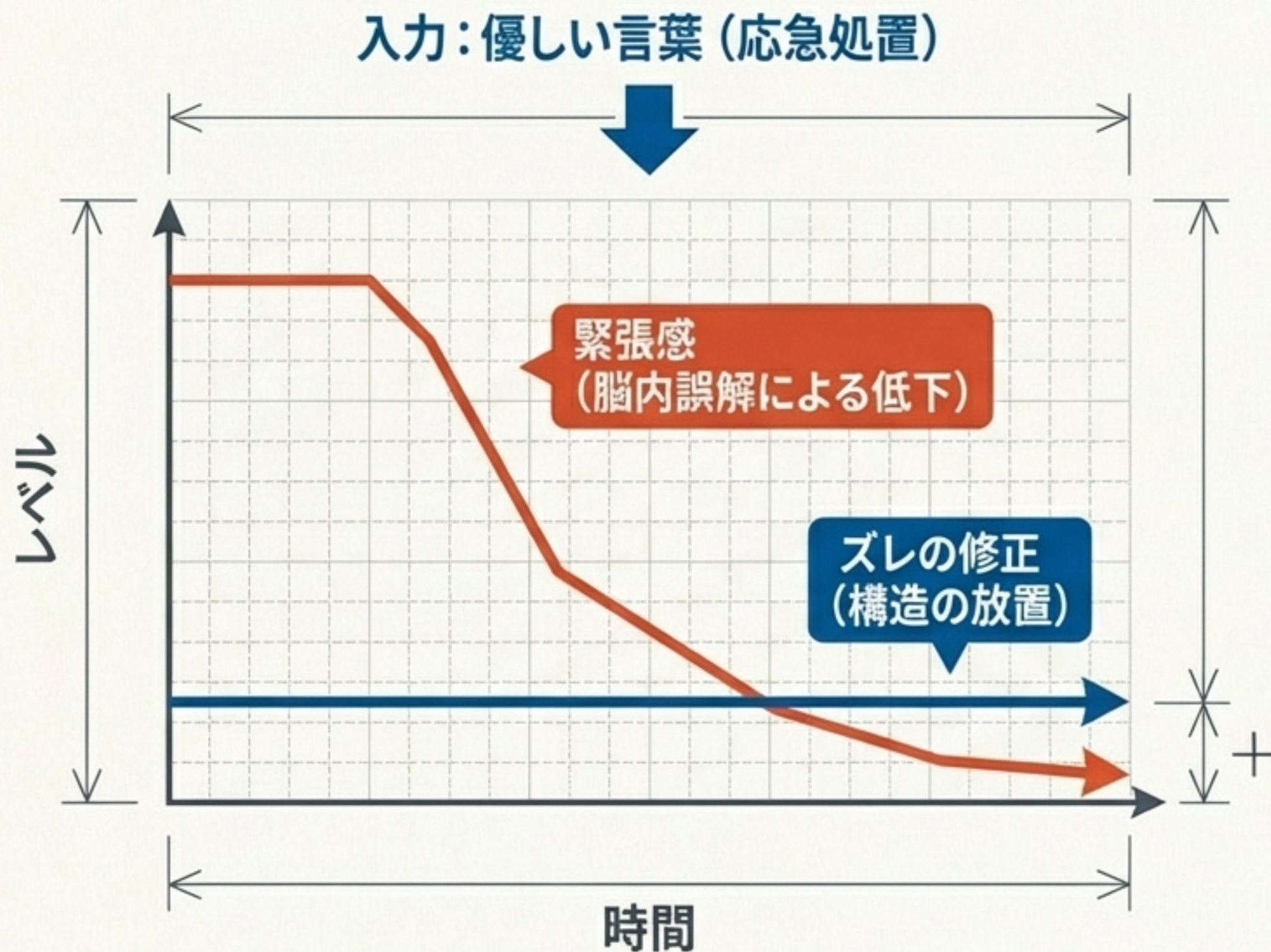
# 誰もが陥る「優しい指導」の罠



ミスの多い人に対して、やたらと優しく、傷つけないように接する。現代社会ではそれが「良い指導」とされがちです。しかし、現実を目を向けてください。

優しく言われ続けた結果、ミスが劇的に減った人を、あなたは見たことがありますか？

# 「成長を阻害する猛毒」のメカニズム



## Key Insight

脳内での致命的な誤解：  
「変わらなくても受け入  
入れてもらえるんだ」

痛みだけが消え去り、  
肝心の「ズレ」が放置される。  
その優しさは、成長を阻害する  
猛毒でしかない。

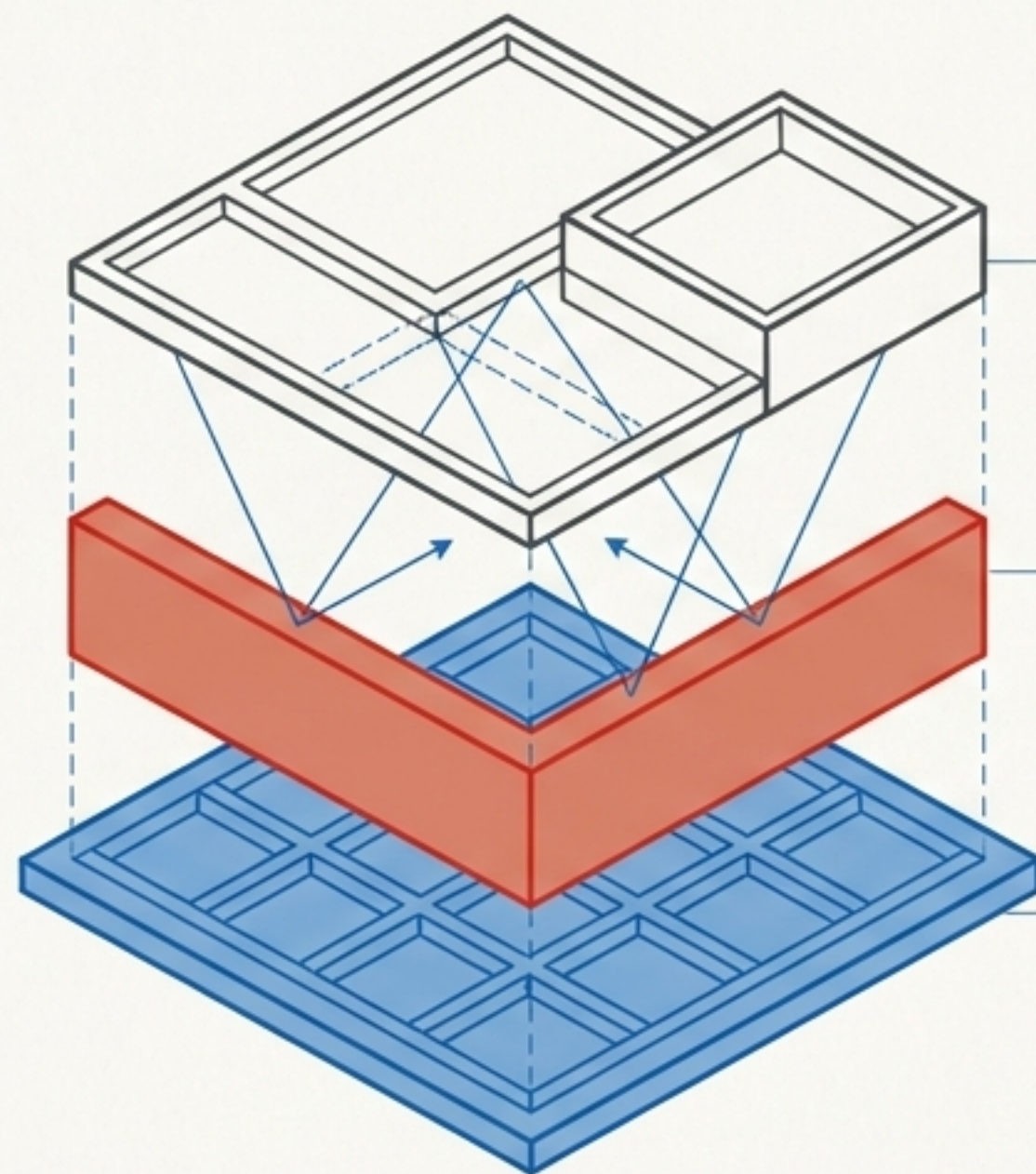
必要なことを言わずに  
オブラートに包むこと。  
それは一見優しく見えて...

現状維持

= 緩やかな見捨て

極めて冷酷な行為であるという、残酷な真実。

## ミスは「気分」ではなく「構造」の問題である



性格が悪いわけでも、やる気がないわけでもない。

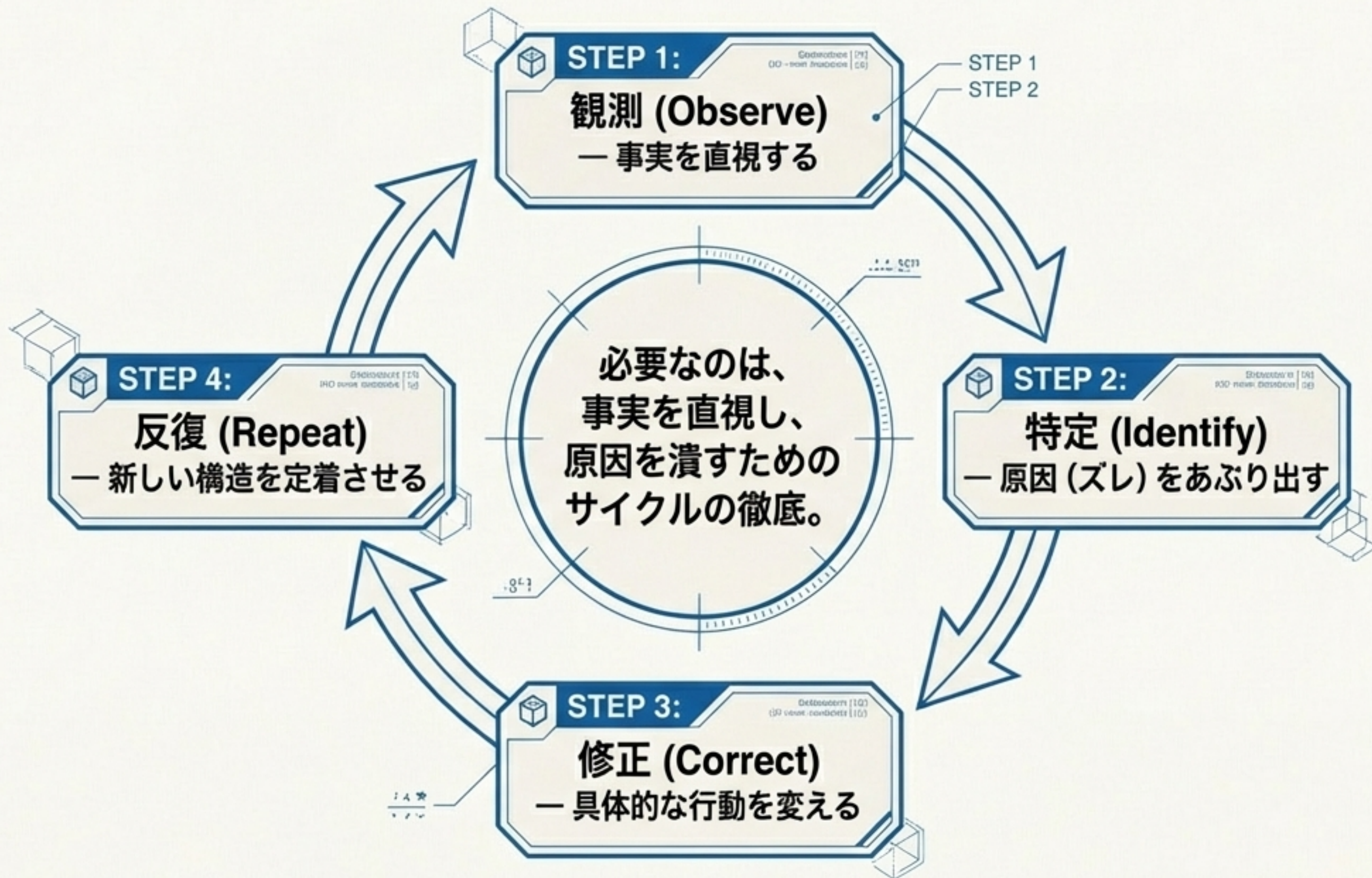
防衛の壁：自分の「ズレ」を、ズレとして認識できていない。

- ・要因 A：ズレを認識したくない（防衛本能）
- ・要因 B：認識しても、具体的な修正行動に落とし込めていない

現実の因果律（構造）

上達とは、「自分にとって都合のいい解釈を手放すこと」であり、  
「現実の因果律に従うこと」である。

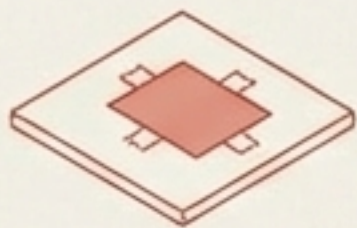
# 成長のエンジン：「慰め」から「構造の更新」へ



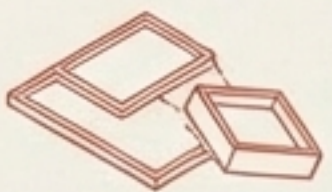
# 比較診断：あなたの優しさは、どちらか？

## 表面的な優しさ

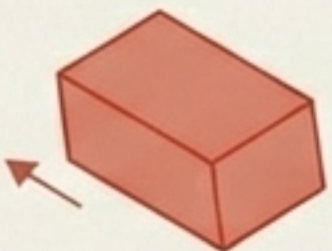
気分を良くする、  
その場をやり過ごす



緊張感の喪失、  
現状維持



緩やかな見捨て



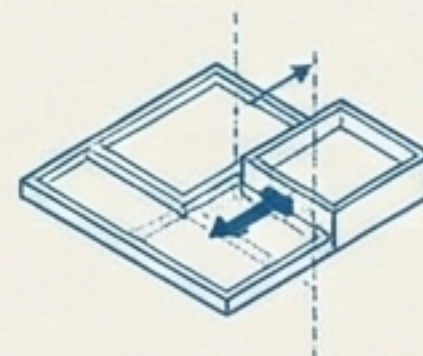
目的

結果

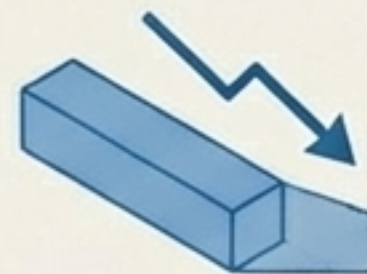
正体

## 真の優しさ

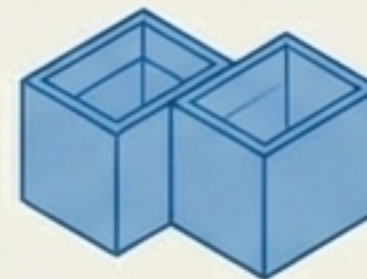
再現性を高める、  
ズレを直す



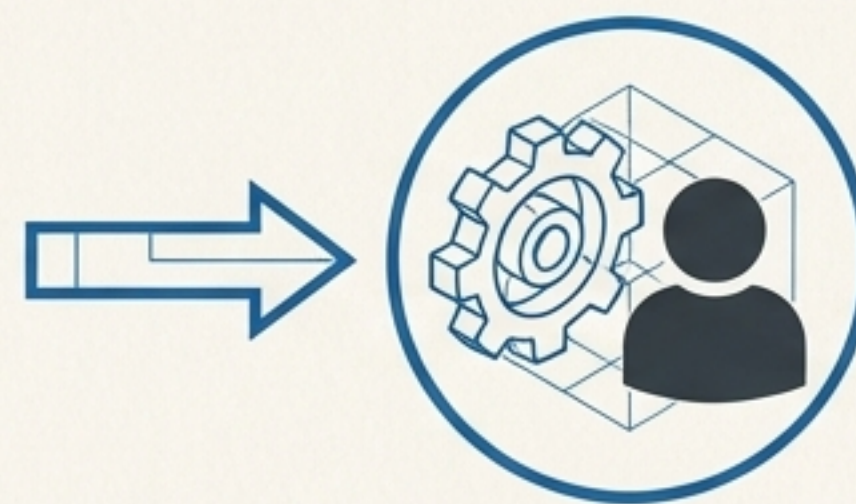
構造更新、  
ミスの減少



現実を共に持つ  
覚悟



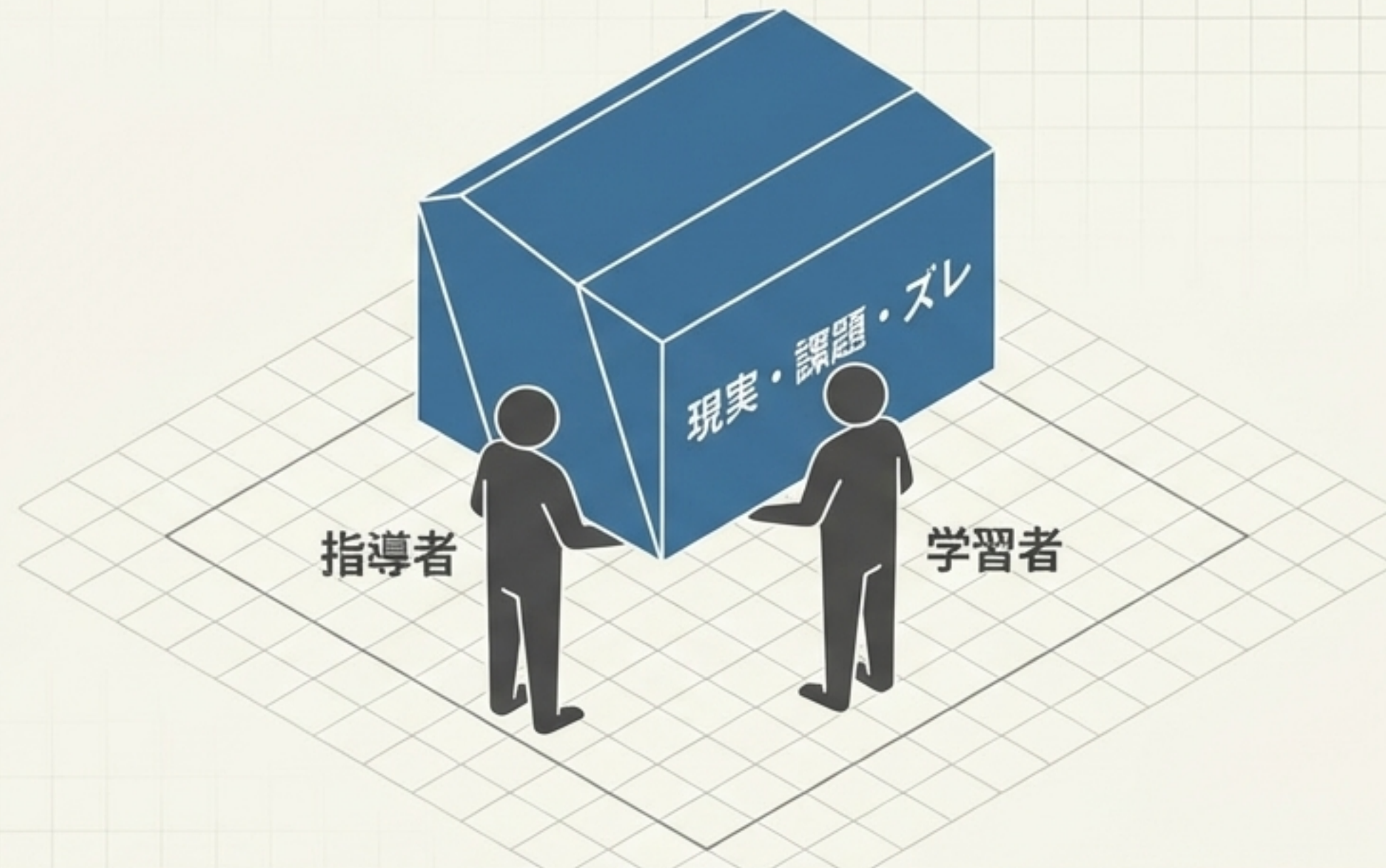
# 指導言語の変換辞書：人格否定から「状態の明確化」へ



✗ なんでお前はいつもダメなんだ	⇒	○ 同じ失敗を続けているのに、同じ考え方のままだ
✗ 気合が足りないからミスするんだ	⇒	○ 今の打点だと下からあおるから浮く
✗ (沈黙／言わずにオブラートに包む)	⇒	○ その構えだと準備が遅れる。今のミスは判断の雑さだ

厳しい指摘は、相手を「変化可能な存在」として敬意を持って扱っている証拠である。

# 本当の優しさとは「現実を共に持つ」こと



優しくして成長を止める人より、厳密で成長を進める人の方が、ずっと温かい。  
真の優しさとは、相手を気持ちよくさせることではない。  
「相手が変われる地点まで、現実と一緒に持っていけること」なのである。

# セルフチェック：あなたは今、どこにいるか？

## あなたが指導者の場合

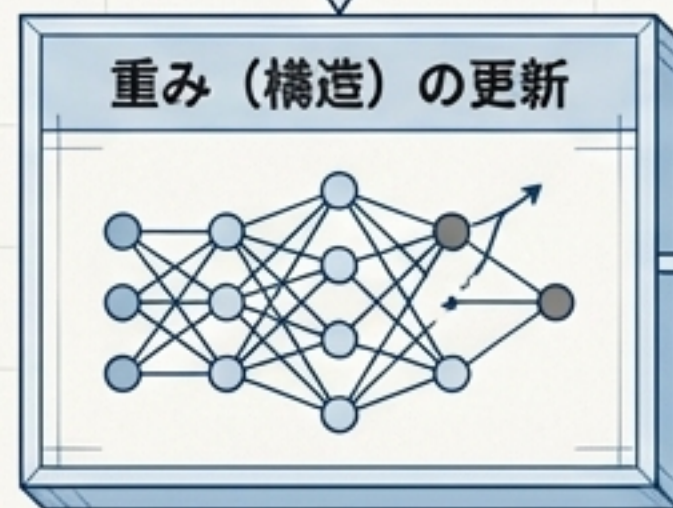
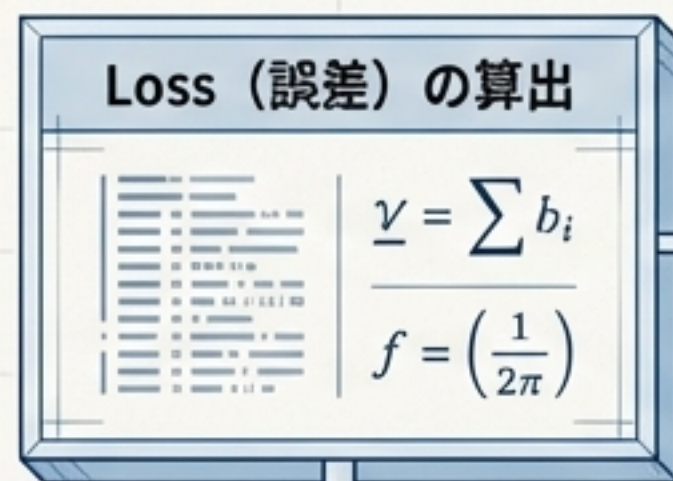
- 相手の機嫌を損ねることを恐れて、言うべき「ズレ」の指摘から逃げていないか？
- あなたの発する言葉は、相手の「構造更新」を促しているか？

## あなたが学習者の場合

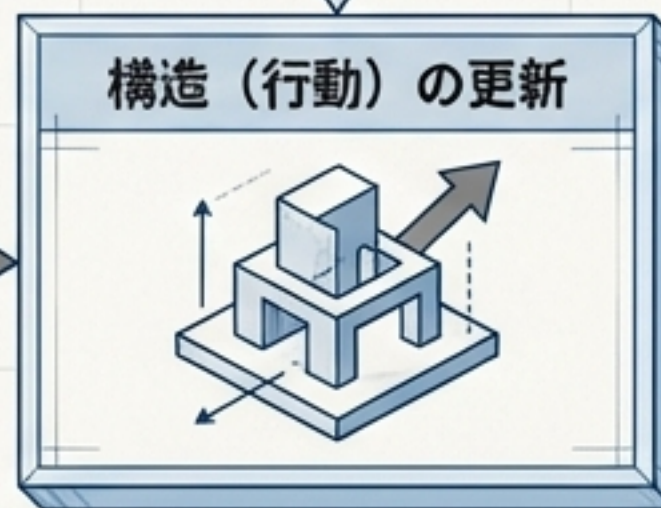
- 「大丈夫だよ」という言葉に安心し、具体的な修正行動を怠っていないか？
- 自分を守るための言い訳を捨て、現実の因果関係を受け入れているか？

# 次元上昇：AIの学習モデルと人間の成長プロセスの完全同期

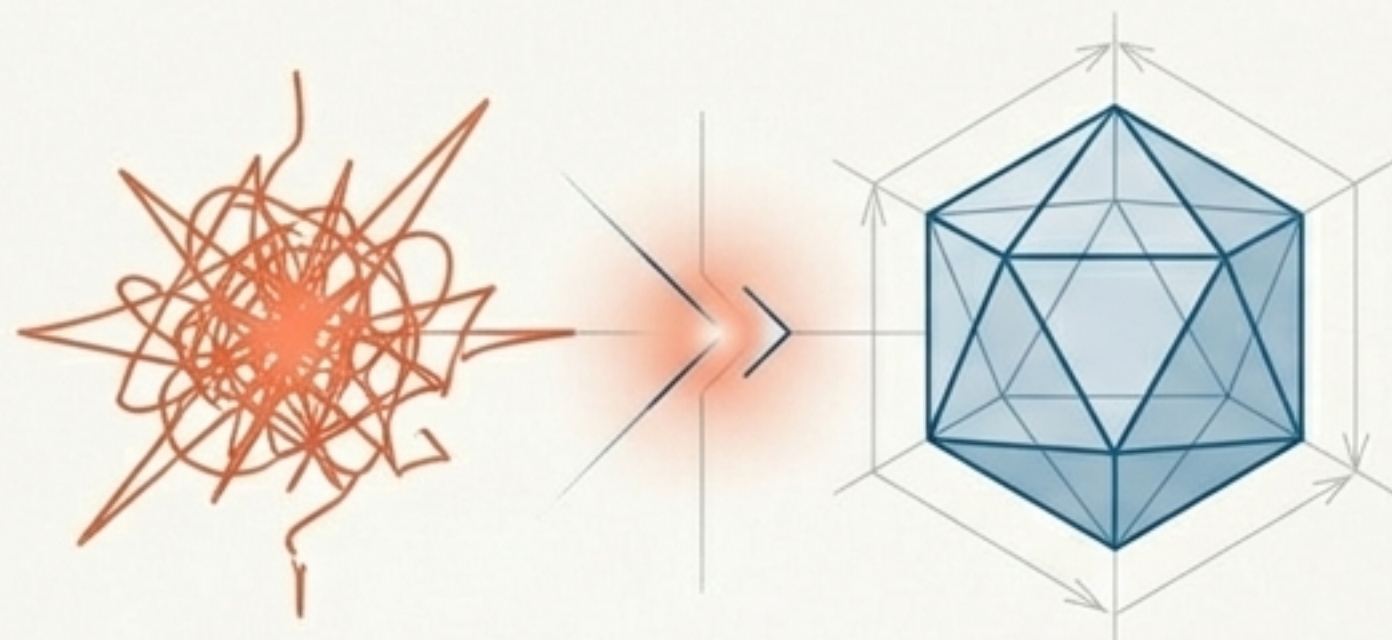
## AIの学習モデル（誤差逆伝播法）



## 人間の成長プロセス



AIに「エラーのままでいいよ」と甘やかし、アルゴリズムを止めれば、そのAIは永遠に賢くならない。  
人間も同じだ。エラーの放置は、人間の無限の可能性に対する「見捨て」に他ならない。



# 慰めではなく、更新を。

苦しい現実直面し、それを特定して修正行動に移すには、莫大なエネルギーと勇気が必要だ。  
しかし、その「現実の直視」の向こう側にしか、本当の成長やブレイクスルーは存在しない。  
自分自身のズレから逃げず、相手のズレからも逃げず、共に高みを目指す第一歩を。